

SSKR まうんてんえこお

No.301

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所（就労継続支援B型）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所（相談支援）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所（就労継続支援B型）

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36
TEL(03)3933-8935 FAX(03)5398-7681
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所（相談支援）

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36
TEL&FAX(03)6906-9803
Email: ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井（就労継続支援B型）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: work@msd.biglobe.ne.jp

チャレンジワークやまびこ（就労移行支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: c.w.ymbk@xvg.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所（相談支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

やまびこ三原荘（共同生活援助）

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

狙うなら三つ星☆☆☆



お好み焼きが完成！！

料理が大好きな「もこみち さん」。
共同生活の中で、1つひとつ生活の力を身につけようと日々意欲的に努力を重ねています。
(世話人 佐藤)

1人暮らしをめざして

やまびこ三原荘 もこみち さん（仮称）

将来1人暮らしをするための準備として、昨年にやまびこ三原荘へ入居しました。生活費の自己管理、自炊、掃除当番、ミーティングなど、共同生活を通じて生活に役立つ経験ができています。

特に食事の自炊では、料理本を読んで色々な種類の Pasta を作ることや、時短で作れるレシピが楽しいです。

毎週土曜日の「昼食づくり」のプログラムでメニューをもらい、自炊でも野菜をとるように実践しています。ホイコーロー、ポークチャップ、蒸し野菜、カルボナーラ、お好み焼き、酢鶏など自分でも美味しく作れるようになりました。料理の楽しさを実感しています。

2年後の1人暮らしの目標に向かって、一步步歩いていきたいと思っています。

目次

表紙 やまびこ三原荘

P2 法人本部事業計画

P3 山彦作業所事業計画

P4 やまびこ第二作業所事業計画

P5 ワorkshop石神井事業計画

P6 チャレンジワークやまびこ

P7 やまびこ三原荘事業計画

P8 相談支援事業所

P9 街頭署名報告

P10 街頭署名報告／新人職員挨拶

P11 やまびこのペン

P12 かぜ(ワーク)

2020年度 法人事業計画

本年度の計画

①やまびこ第二作業所と

山彦作業所の場所問題

【やまびこ第二作業所】

17年に「練馬区公共施設総合管理計画」が策定され、やまびこ第二作業所の建物は耐震構造上問題が生じる可能性があり、現在地での建て替え、または立ち退き転居等、早急に結論を出すことを求められておりました。関係する他団体とも協議しながら、検討を進めていきます。

【山彦作業所】

やまびこ第二作業所同様に「練馬区公共施設総合管理計画」に基づき今後大規模改修を要する状況時には、立ち退き等の対応を迫られます。山彦作業所の建物は建築後30年近くを経ており、耐震上の問題は無いと思われませんが、雨漏り等の傷みがひどく、今後早急な対応が必要です。

他法人で施設の建物を買い取った例があり、当法人でも早急にその方向で検討を進めていきます。

②相談支援事業をめぐる課題

事業としては関係者から高い評価を得ておりますが、経営上は厳しい状況にあります。前年度に引き続き理事、職員間での協議を進め事業の発展性や地域ニーズの把握、区の意向等を踏まえ、今後の事業の方向性を検討していきます。現状では作業所職員が実質各1名欠員状態にあること、相談支援事業の報酬単価が低いことなど法人事業全体の見直しや、区との協議を要する事項があること等を勘案し、進めていきます。

本年度は方向性について一定の目的を立てると共に、相談支援事業が区の障害者福祉の中で果たしている役割や成果についても自己評価を進めます。今後この事業をどのように考えるか法人だけの問題とせず、練馬区との協議も含め課題の整理を行います。

③職員研修育成について

前年度に特定処遇改善加算制度の導入が行われましたが、当法人のような小規模法人では導入が困難であり、今後の対応を検討し、導入の可能性を探りたいと思います。

法人全体でキャリアパス要件を定めましたが、一般的な指標を示しているだけなので、必ずしも個々の職員の研

修課題が明確ではありません。本年度は職員の経験や職責に応じた研修課題をより明確にし、整理した中で研修を考え、キャリアパス要件図に応じた研修を全体で取り組むべき課題としていきます。

虐待防止については昨年に引き続き全職員を対象に研修を行います。

④法人中長期計画の策定

理事会を中心に中長期計画の進め方を考え、本年度はより具体化すると共に、地域ニーズの把握や利用者家族の意向を確認するための方策を探ります。相談支援事業のあり方は喫緊の課題であり、その点の課題を明らかにしていきます。

⑤法人のガバナンスについて

社会福祉法人に求められる責任や役割を積極的に担うために健全な組織運営や管理体制を目指します。法人運営に関する規定等の整備と文書の管理を図り、情報の発信や開示により開かれた法人運営を目指します。

以上

山彦作業所 2020年度 事業計画

☆新型コロナウイルス感染拡大による影響について

新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、職員・利用者への手洗い・うがいの徹底、検温・体調確認の実施、来訪者への検温・体調確認の実施、一定時刻での作業所内の消毒の実施等に取り組んでいます。これは新型コロナウイルス拡大が懸念されている間は実施する予定です。また、作業所は三密になりやすい為、換気・加湿・利用者同士が密になりすぎない様に作業場のレイアウトも変えました。

☆事業の課題と目標

二〇一九年度の概況

年度途中で新規入所2名。年度途中での退所者1名。年度末退所者2名と例年に比べると利用者の入退所が多くありました。

長年通所している高齢の利用者と支える家族の高齢化にどう寄り添い、取り組んでいくかが今後の課題になっています。そのため作業の細分化や取り組みやすい環境の提供、できる事を増やす、こと等が課題となっています。利用者自身の力を引き出せる支援と職員の支援力の向上・底上げを目標に取り組んでいきます。

2019年度も積極的にボランティアを受け入れました。受け入れの実践を通して、利用者の気持ち豊かなになり、利用者を見守る目が増え、作業も検品等に入ってもらい助かりました。メリットが多くあり今後

も障害への理解の向上を広げていくために広報誌などを通して多くの地域の方に関わって頂くことが目標です。

現在の建物の築年数が30年近くになり、雨漏りなど痛みが目立つようになりました。しかし、そのための財政的な余裕もあまりなく、対策として、家族会で山彦作業所応援団の立ち上げに向けて、家族と話しを行いました。

作業面では、支援の必要性に応じて、パーテーションで空間を個別化し、作業に集中できるように配慮を行いました。これから利用者にとって魅力ある、通いたくなる作業所を目指し、山彦作業所の理念を大切にしながら、安全・安心して作業所活動ができることを目標とします。

二〇二〇年度の目標

①働きたいという利用者の想いにこたえるため、安心・安全に取り組める環境を整えながら、工賃収益の増額を目指します。

②利用者の障害状況に配慮し、本人の能力、意欲を尊重し、利用者の希望を叶えるため、作業の確保や生産に努める。利用者自身の力を引き出せる支援を提供する。

③虐待防止の周知徹底。虐待がおこなわれないように、職員間の意識を高める事、意見を言い合える、指摘し合える関係を築き、利用者・家族・関係機関との信頼関係の構築をはかる。

④この先も利用者の高齢化、支える親の高齢化が課題となっていく中で、どのように

利用者や家族に向き合いながら、1日でも長く働けるように役割の提供していく。関係機関と連携しながら利用者自身と家族が納得できるように支えていく。

⑤本来は支援とは関係がない、利用者の通所人数や利用者の通所日数を気にしながら支援をしないといけないという日額制度は問題だと感じています。利用者が安心して作業所通所ができるように制度改正の運動に力を入れていきます。

☆事業概要

名称 山彦作業所

（就労継続支援事業B型）

主たる対象者 知的障害者・精神障害者

・身体障害者

定員 30名

職員体制

常勤 6名

（施設長・支援員・事務員）

非常勤 8名

（栄養士 支援員 調理員）

☆基本理念

・山彦作業所は、障害者の働きたいという願いに応えます。

・山彦作業所は、仕事を通じて利用者の物心ともに、豊かな地域生活を目指します。
・山彦作業所は、地域福祉の充実を目指します。

以上

やまびこ第二作業所 2020年度事業計画

☆運営に関して

建物の老朽化、構造上の問題に伴う建物移転に関しましては、練馬区保有の土地に、こぶし事業所様が建設する建物へ3つの団体が入るかたちで、今後も4者（練馬区及び3団体）で協議をすすめていきます。

☆2020年度の目標

今年度は、次の3点を重点的に取り組みます。

一 建物移転に関して

○引き続き4者協議に参加し、意見や要望書等を提言、提出していく予定です。利用者に対しては現地見学を行い、適宜進捗を伝えていきます。

二 支援の充実

○「個別支援計画」利用者と面接のうえ作成し、計画に基づいて支援をします。また、「中間見直し」・「振り返り」を行います。

○日頃から職員間の情報交換や朝夕のミーティング、支援会議等を通して、担当以外の利用者についても状況の把握を行います。

○健康診断は利用者全員が行うよう工夫します。健診結果に対して、共通の課題など振り返りを行い、維持管理を行います。

○利用者ミーティングを出来るだけ定期

的に行い、利用者と職員が一緒になって安心して通える作業所を目指し、思いや願いを安心して言える雰囲気作りに努めます。また、定期的に月間予定表を配布して、作業所の予定やお知らせが行き届くようにします。

○ランチサービスでは、栄養バランスの良い食事をとれる機会をつくります。食生活に課題を感じている利用者へ利用を働きかけていきます。

○関係機関と日頃の連携を強化し、維持に努めます。また、相談支援事業や就労移行支援事業とも連携を行い、より利用者の思いや希望・願いに沿った取り組みをします。

三 作業支援の充実

○病気や障害を抱えながら作業所で働く事を相互に理解し合えるよう関わります。集団の中での個々の思いを出来るだけ大切にします。

○個々に行う作業だけでなく、グループで協力して行う作業も取り入れて、お互いが自発的に補い合えるよう働きかけます。

○より主体的に働き、本人の自信につながられるような支援に取り組みます。

○作業を切れめなく行えるよう、週間作業予定表を活用し計画的にすすめます。

○「作業の場」と「休む場」を分けることで、「フリー」をしている人が安心して過ごせ、休める場を確保します。

○新規の作業導入に努めます。

○ヒヤリハットを作成し、安全に作業を行えるよう努めます。

☆地域交流事業等の実施

○利用者の多くの参加を呼びかけると共に、役割の範囲を広げる事で地域との交流と啓発を図ります。

○地域の保健相談所からの実習生や研修生を受け入れていきます。作業ボランティアとして、地域の方への参加を図ります。

☆支援方針

○個々の希望や思いを大切にして、作業所に安心して通えるよう支援します。

○関係機関と連携を取り合いながら、安定した地域での生活を送れるよう支援します。

○健康や生活の向上に役立つような取り組みを進めます。

☆事業概要

事業名 やまびこ第二作業所

（就労継続支援B型事業）

・主たる対象者 精神障害

・定員 30名

・職員体制

常勤 4名（施設長・支援員）

非常勤 4名（支援員）

以上

ワークショップ石神井 2020年度事業計画

☆2019年度の概況

新施設に移り3年が経過しました。

2019年度は、移転後初めてとなるバザーを開催することができ、普段とは違う利用者の力が発揮されました。また地域の方々との繋がりの大切さを改めて感じました。

☆2020年度の重点課題

1、新型コロナウイルス感染拡大を受けて感染予防の観点から、検温・手洗いを徹底し、利用者の健康状態に注意するとともに、施設内の消毒、換気を徹底します。

感染への不安や、自粛生活で引きこもりがちになったことで体調を崩すことが無いよう、利用者の心に寄り添いながら支援します。

2、個別支援の充実

①利用者が安定して通所し働けるように心身の健康に重点を置きます。

②利用者自身の障害や不安、苦手意識を理解しながら、希望をもって行動できるように支援します。

③就労をめざす利用者に対しては、「チャレンジワークやまびこ」や練馬区障害者就労センター等と連携して支援をします

3、作業の充実

(1) 工賃について

①工賃目標額 時給180円

②工賃増額を目指します。

③他事業所と連携し、共同で仕事を受注する仕組みづくりに参加します。

(2) 作業種目

①ダイレクトメールの封入作業

作業工程を細分化し分担して行うことで、確実さとスピードがあがるように工夫する。テーブル配置や資材置き場を見なおし、利用者が自立的に動くことのできる作業環境を目指す。

②線香組立作業

利用者が組立や検品を性格に行えるようにする。

工程を細分化し流れ作業を行うことで効率化とチームワークの向上を目指す。

検品工程に利用者が関わることで作業の質に責任感を持つようにする。

(3) 作業編成

利用者個々人の能力や適性、得意分野を伸ばし、苦手分野を補えるように事業所全体で工夫します。

役割を担うことを通し、個々の力を発揮し自信につながるよう支援する。利用者の意見を取り入れながら編成を考える。

4、事業所が快適に使用しやすいように環境整備を図ります。

5、職員は研修に努めます。

☆事業概要

事業所名 ワークショップ石神井（就労継続支援事業B型）

主たる対象者 精神障害者

定員 28名

職員体制 常勤3名（施設長・支援員）

非常勤3名（支援員）

☆基本理念

①利用者の仲間と共に働きたい願いに応えます。

②利用者の健康で豊かな生活をしたい願いに応えます。

③障害があっても安心して暮らせる街づくりを関係者と地域に方々とすすめます。

☆事業計画（抜粋）

・個別支援計画の策定

・個別面談

・家族・関係者との連携

・行事・レクへの参加

・利用相談

・苦情窓口

・非常災害時対応

以上

チャレンジワークやまびこ 2020年度事業計画

☆2019年度の概況

年度内での一般就労等の状況は以下の通りです。

●一般就労者・・・3名

（事務系1名、軽作業1名、介護系1名）

●就労定着者・・・3名

（事務系2名、介護系1名）

☆2020年度の

重点的な取り組み

1 年間を通じて月平均6名の通所者の確保を目指します

2019年度は利用者5名からスタートし、就労者を3名出すことが出来ました。その就労者3名は現在も就労継続が出来ています。しかし、就労も含めた退所者が5名に對して入所者が3名だったこともあり、今後入所者をどう増やしていくかが大きな課題となっています。

2 6カ月以上定着した就労者3名を目指します。

今年度の目標としていた就労定着者3名については達成できましたが、入所者が少なくなっているため今後安定して目標の3名をどう維持していくかが課題となっています。

3 定着支援事業について検討します。

現在6ヶ月を過ぎた就労者に対して独自に定着支援を行っています。2018年度に就労した2名も含めて、2019年度は3名の就労定着者をだすことが出来ました。現在のような就労移行支援事業所独自の定着支援では支援内容に限りがあるため、定着支援事業を行うことも含めた検討を行っていく必要があると考えています。

☆事業概要

・事業名 就労移行支援事業

（就労継続支援B型との多機能型）

・主たる対象者 知的障害、精神障害

・利用定員 6名

・職員体制

管理者・・・1名

（サービス管理責任者の兼務）

常勤支援員 2名

職業指導員 1名

就労支援員 1名

非常勤支援員 1名（生活支援員）

☆事業の基本方針

（1）利用者の働き続けたい想いをサポートします。

（2）チャレンジという言葉通り失敗も含めた様々な体験をして学び就労を目指します。

（3）本人の目的とペースに合わせたプログラムを提供します。

（4）福祉就労とは違い、一般企業に貢献できる社員として就職できることを目指します。

☆事業計画（抜粋）

就労移行支援の内容

- （1）生活支援
- （2）就職支援
- （3）就労実習
- （4）定着支援

段階に応じた支援方針と体制。

・導入期、訓練期、移行期、定着期に区切り、個々の能力や段階に合わせて個別支援計画を作成し支援する。

苦情解決

別途定める「苦情解決マニュアル」に則り、利用者側の立場に立って誠実に対応する。苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員の氏名と連絡先、相談方法をわかりやすいかたちで事業所内に掲示する。

虐待防止

別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営を行う。

危機管理

別途定める「危機管理マニュアル」に則り、利用者と職員等の生命を第一に考えた施設管理を行う。

以上

やまびこ三原荘 2020年度事業計画

☆2019年度の概況

年度内での入退去等の状況は以下の通りです。

●新規入居・・・3名

（男性1名 女性2名）

●退去・・・2名

（1名アパートへ転居、入院1名）

●滞在型の空室1名（男性）

☆2020年度の

重点的な取り組み

●入居申し込みの状況（4月1日現在）

（男性・・・0名 女性・・・0名）

2020年度は、次の3点の課題を重点的な取り組みとします。また、2017年度以降からの中長期の課題を継続して取り組みます。

1 入居者支援の充実

宿直（週4回）と共に食事サービス（朝食3回、夕食3回）で、相談しやすい体制づくりの強化や、入居者の生活のリズムを支えます。毎週土曜日の昼食作り（調理体験）を継続します。

入居期限がある入居者に対しては、退去後の生活へ安心して移行できるように、電話や訪問などを通して支援します。

日常の食事サービス、食事も、月に2回の入居者ミーティング、誕生会、レク活動等を通して、入居者同士で交流を深めて、各ユニットやホーム全体として入居者が良好な関係を築くと共に、将来的

な生活に向けてお互いが支え合える支援を行います。

2 業務内容の整理

支援マニュアル等の整備を行うことによって、業務内容や責任制、非常時の対応など明確化します。

3 危機管理体制の確立

災害や感染症など、危機管理体制を見直し、確立します。

中長期の課題

滞在型や体験利用、ショートステイなど多様なニーズに対する検討をします。今後のグループホームとそれに関連する利用ニーズについての検討をします。

- ① 通過型の入居者が滞在型への移行を希望することについて。
- ② ワンルームタイプへの希望の増加。
- ③ 体験利用の充実。
- ④ ショートステイの検討について 等。

☆事業概要

- ・事業名 共同生活援助（グループホーム）
- ・主たる対象者 精神障害
- ・入居定員

1階	男性2名（滞在型）
2階	女性4名（通過型）
3階	男性4名（通過型）

サテライト

1 D K 4 室	4 名（滞在型）
2 D K 1 室	2 名（滞在型）

・職員体制

常勤世話人・・・3名

（うち1名、管理者とサービス管理責任者の兼務）

非常勤世話人 6名

顧問医 1名

夜間体制 宿直週4回（月・木）

☆事業の基本方針

- （1）入居者の生活の安定を図り、健康の維持増進と生活の質の向上を目指す。
- （2）入居者どうしが良好な関係を築いていけるように支援し、交流を図る。
- （3）安心して快適に暮らせる住環境を提供する。
- （4）関係機関と連携し、地域福祉の向上に資する活動を行う。

☆事業計画（抜粋）

定期面談	6ヶ月ごと
ミーティング	月3回
レク	年2～3回
食事提供	夕食 日・火・木 朝食 火・木・金
	以上

きょうされん第43次国会請願 行動が始まりました！！

2019年12月6日に行われた
「がんばるデー」（新宿）に
参加してきました。

きょうされんでは、障害者週間（12月3日～9日）を「がんばるウィーク」と位置付け、全国各地で、障害当事者や職員・家族が街頭に立ち、『第43次国会請願署名・募金』の呼びかけ（がんばるデー）を行いました。なぜこのような活動を行うかという、きょうされんでは「あたりまえに働きたい、きょうされんでは「あたりまえに働きたい」を目標に、障害福祉についての制度の拡充を求め、43年間署名・募金活動



(写真上)スピーチする山彦利用者
(写真下)街頭で募金と署名を訴えた



を続けているからです。
東京においては、『がんばるデー中央企画』と称し、12月6日（金）に新宿駅西口のロータリーにて、署名・募金活動が行われ、山彦作業所も参加してきました。利用者4名職員1名が参加しました。自分たちの思いを訴えるために、利用者2名が車の上に立ってスピーチも行いました。

中村橋駅周辺で街頭署名運動

2月18日（火）に、山彦作業所、やまびこ第二作業所、ワークショップ石神井が合同で街頭署名・募金運動を呼びかけました。3所から利用者・職員合わせて15名が参加し、寒い中街行く人たちに呼びかけを行いました。初めて街頭署名に参加した利用者もいました。「全然署名してくれないね」「すごいよ、こんなにお金を入れてくれたよ」などはじめてだらけの出来事に驚きながら取り組んでいました。久しぶりに参加した利用者も「昔はもっと署名してくれる人がいた気がするなあ」「あんまりお話を聞いてくれないね」など、コロナウイルスの影響で出歩く人が少なかったとはいえ、7～8年前と比べ、寂しい気持ちを感じられたようでした。





それでも1時間ほど運動をする中で、少しずつ私たちの呼びかけに耳を傾けてくれる人も現れ、用意していたビラやティッシュもなくなるほどでした。

拡声器をもった利用者も、こぞとばかりに張り切り、「障害者福祉を良くしてください!」、「工賃をもっともらえるようにしてください」、「就労したいけど、なかなかできません。もつと就労しやすくしてください!」、「もつといろんなサービスが使えるようにしてください!」と大声で訴えました。その声に立

ち止まって、耳を傾けてくる人、
「がんばってね」、と応援して
くれる人もいました。
そのおかげか、

結果として

署名20筆

募金 10,842円

が集まりました。



◎署名・募金にご協力
いただいた皆様、あり
がとうございました。

新職員挨拶

19年12月より
入職しました

山彦作業所

村上 瞳

職初めまして、12月から入
 ています。私は介護福祉士
 を持つており以前はずっと
 高齢者関係の仕事をしてい
 ました。人と関わったり、
 お話したりするのが好きな
 為毎日楽しく仕事していま
 した。
 作業所に入り、メンバー
 さんとうまくコミュニケーション
 ションをとれるか、うまく
 支援できるか不安な日々で
 した。でも皆さんウエルカ
 ムな感じで接してくれ不安
 から楽しさに変わり、1日
 1日が早く過ぎていきます。
 週末になると疲れが出てく
 るのですがみなさん全然変
 わらず逆に元気をもらって
 います。
 休日になると仕事のこと
 を忘れられます。家にいる
 全開になります。外に出
 ことが苦手なので、



ることが多く、買い物をした
り、美味しいものを食べに行つ
たりして、ストレス解消して
います。最近では新型コロナウイルス
の影響で、なかなか
が外出できないことが残念
です。

実家が北陸なので、年に数
回帰る帰省もとても楽しみ
になっていきます。そして、気
持ちを切り替えて仕事にい
きます。

今年の4月からは担当も
でき、役割で仕事もでき、さ
らに覚えたりすることも増
えてきました。が、皆さんの
笑顔に癒やされながら頑張っ
ていきたいと思っています。毎
日元気に通っていい環境で
支援できるように日々努力
し、勉強していきます。

これからよろしくお願
いします。

やまびのペン

新型コロナウイルス について思うこと

やまびこ第二作業所

斎藤 恵久子

「半年前に戻ったら何する?」
「マスクを大量に買う」「アルコール除菌液を大量に購入する」そんなことを職員同士で雑談しているこの頃です。

まさかこんな感染症が流行るなんて誰が想像していたでしょう! マスクがどこに行っても売っていない、アルコール除菌液がどこにもない、トイレトペーパーがない、ティッシュペーパーがどこにも売っていない、ペーパータオルがない、体温計がない、石鹸液がないなど不自由なことが多くなりました。3月中旬ころから徐々に店頭に並ぶようになってきました。が、「おひとりさま1点でお願いします」と明記されたビラはあるもののいつも品物は空っぽ状態。現在の4月の中旬頃は品数は残っ

ているものの、根強くマスクやアルコール除菌液や体温計などは入ってくる目途がたつていません。ご家族から頂いたり職員や他事業所からの紹介等で一時の不自由さから解除されつつありますが、感染そのものは増える一方です。

感染経路も分からない人が多く、自分もいつかかるかわからない不安を抱えながら毎日職場に向かっています。

私は自宅から職場まで約1時間電車に乗って通勤しています。池袋で乗り換えて地下鉄に乗り換えますが、いつもぎゅうぎゅうに混雑する電車が徐々に1割減、2割減と緊急事態宣言等の関係で減ってきており現在は約3割、4割減というところでしょうか!

他の事業所では在宅支援に切り替えたり、朝夕のラッシュを避けて時短にしたりそれぞれ正解はないにしろ話し合いを重ね今出来得る最大の方法を実行している状態です。

当作業所においても職員やメンバーの時短を決定しています。個人個人には検温・アルコール消毒、うがい・手洗いの徹底、マスク着用、37.0度の発熱があったときは電話連絡をして欠席をしています。

ただくことを徹底しました。作業所内においては換気の徹底、食事や作業をする際に対面にならないよう、また距離を置いて座ること、食事や水分補給でマスクを外すときはおしゃべりをしないことを何度か伝えて徹底するように心がけました。

でも内心はとても怖いです。ここでコロナが蔓延したらどうしよう、休所にした方が良いのかも・等々の葛藤が常にあります。

それでも開所することにしたのは、ここが精神障害者の居場所としての機能が大きかったことが挙げられます。やっと生活リズムが整って通えるようになった人や長いこと引きこもりで何とか定期的に通所できるようになった人、依存症で時間があつたら持て余してしまい体調を崩してしまう人などが多いので閉所にした場合など日常生活が心配されます。

それでも、やはり開所していることに不安が伴います。私自身がコロナにかかり他の人に移してしまふのではないか、作業所で一人でも感染者がでたら、開所していただくことをすぐ後悔してしまうのではないかな等々悩みはつきません。一人ひとりが不安の中、いつ収

束するかもわからない状態でどこまで我慢すれば良いのか、ストレスが溜まる一方でそのはけ口がない人間関係を壊すことになるのか等々考えていると、人間は本当に精神的に脆い動物だと感じています。

この状態が一日も早く収束して欲しいですし、元の生活に戻して欲しいと願わずにはられません。作業所に通うことになって人間関係が出来、休み時間のおしゃべりや将棋など楽しみが増えた人も多いですが、その楽しみを奪うような状態を目指さなくてはいけなくなりました。

職員1人1人でも考え方が違いますが、同じ我慢でもみんなが納得し葛藤の中から、お互い知恵を出し合つてより良い支援に結びつく方法を見いだしていきたいと考えています。



やまびこのかせ



「メンバーインタビュー」

ワークシヨップ石神井には、現在33名のメンバーが在籍しています。その中で今回は、一番の若手Iさんに、ワークに入ったきっかけ等々お話を聞きました。

Q. ワークシヨップ石神井に入ったのはいつ頃ですか？きっかけは？

A. 二年半くらい前。レインボーワークの紹介で見学をしました。見学したときは緊張しました。作業の様子を見て、「自分にもなんとかできるかなあ」と思ったので、家族とも相談して通うことに決めました。

Q. ワークシヨップ石神井に入って良かったことはどんなことですか？

A. 仕事ができたこと。以前に一度バイトの面接を受けたけど落ちてしまって、ここで仕事ができる良かったです。

Q. ワークの仕事ではどんなことが得意ですか？

A. 得意というか・・・線香の計量や、今やっているパソコンの仕事は、やりやすいかなあ、と思います。どちらかといえば一人でコツコツできる仕事の方がやりやすい気がします。

Q. ワークシヨップ石神井に入って自分が変わったなあ、と思うことはありますか？

A. 少し行動力がついたような気がします。

Q. 例えばどんなことですか？

A. 以前は出かけることは無かったけど、親の買い物とかに一緒に出るようになったりしました。

Q. 将来の目標、希望などがあれば聞かせてください

A. 将来は就職したいです。今はまだ「就職しても続かなくなっちゃうかも」という心配があるので、具体的なことは決めていませんが、どんな仕事をしたいかこれから考えています。



人前で話すことは苦手というIさんですが、職員の質問に一生懸命答えてくれました。

これまでいろいろな作業をしています。どんな作業も一生懸命取り組んで、とても上手にこなしています。最近始めたパソコンを使った作業でも、すっかり慣れて力を発揮してくれています。

まだまだたくさんの可能性を秘めたIさん、将来の就職に向けて、一歩ずつ進んでいってほしいと思います。

（聞き手 渡辺）

編集委員より

読者の皆様いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスの影響により、今までは普通にできていたことで、できなくなってしまうことが多くあります。今まで普通に生活していたことのありがたさをとて強く感じる機会になりました。

（山彦 山田）

編集人

社会福祉法人練馬山彦福祉会

東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ102号室

頒価 20円